

総務文教常任委員会会議録

- 1 日 時 平成28年5月2日（月）
- 2 会議時間 10時58分開会 11時35分閉会
- 3 出席議員 委員長：高橋政悦 副委員長：鈴木孝寿
委員：北村光明、木村好孝、口田邦男、中島里司
議長：加来良明
- 4 事務局 事務局長：佐藤秀美、係長：宇都宮学
- 5 説明員
- 6 議 件

(1) 所管事務調査
学校現場における教育活動の状況について（道外視察事前調査）

(2) その他
- 7 会議録 別紙のとおり

議件（1）所管事務調査

学校現場における教育活動の状況について（道外視察事前調査）

委員長：（高橋政悦）皆さんお疲れ様です。ただいまより開会する。お手元に、前回の委員会の議事録（未定稿）と視察研修の報告書様式を配布している。本日は、視察研修前の最後の委員会になる。議会事務局の方で、各視察先に内容を網羅した調査を依頼している。これから、質問事項を整理しながらまとめていきたいと思う。よろしく願いたい。議事録（未定稿）を一読するために休憩する。

【休憩 11:00～再開 11:05】

委員長：再開する。視察先の順番に整理していきたい。まずは秋田県五城目町について整理したい。当初は「少人数学級・少人数授業、家庭学習、保護者への働きかけ」などの取り組みの調査を依頼している。前回の委員会で「全国学力調査・県学習状況調査の高校入試の活用」の話があったが、五城目町の主となる説明員は小学校の校長先生のため、「幼保小中高の連携」の調査も依頼した。1か所の時間が1時間半程度なので、なるべく先に調査依頼をした内容に沿った形で願いたい。前回の委員会で出た意見でほとんどが網羅されていると思うが、皆さんがそれぞれ言った内容からあまり外れないように再度の質問等々を各自で整理して考えていただきたいと思うがいかがか。最初に依頼をした「少人数学級・少人数授業、家庭学習、保護者への働きかけ」の中では、清水町は少人数学級、少人数授業は実践している。その話を聞いたうえで、清水町との違いの質問はいいと思うが、違う視点のお話は向こうも戸惑うだろう。それから、家庭学習、保護者への働きかけのお話については、おそらく県の方が何時間しなさいということではないと思う。この単元についてこれくらい家庭でやってくださいというような具体的な指示があるのかなのか。その辺をせっかく調査するので、議員も先にいろいろ調べておくべきという気がする。あと、追加依頼した「幼保小中高の連携」についても突っ込みどころがあればと思う。何かほかにありますか。

鈴木委員：前回の委員会で、委員長が質問した保護者の求めるニーズに合致しているのか。要は保護者の理解をどのように図ってきたのか。もしくは保護者の意識を聞いてみたい。教育委員会だけが頑張ってもできることではないので、その辺も最終的には聞きたい。

委員長：保護者への働きかけの中で、何らかの説明があると思う。その辺のニーズの把握の仕方は聞くべきだと感じる。

口田委員：視察の取り運び方はどのような考え方でいるか。委員長の司会的で取り運ぶだろうと思うが、委員それぞれに一言ずつ話してもらうことが一番大事なことだと思う。

委員長：視察先の対応はどういう形であるか分からないが、これについてというキーセンテンスは渡してあるので、それに基づき清水町との違いを探り出して、いいところを清水町に持ってくるように考えながら質問していただきたい。委員全員が聞かなくてはいけないということではないが、各委員の視点はそれぞれ違うと思うので、自由に質問していただいていると思う。ただし、あまりにも逸脱したものを質問しても相手も困ると思う。また、質問の前段に自分の町はこうだとの説明は必要ないと思う。それを説明すると時間がかかってしまう。各委員の皆さんは質問のポイントを整理願いたい。

口田委員：視察先から依頼内容についての説明を受けて、それに対して皆さん何かないかという持ち方をするのか。

委員長：そのとおり。

口田委員：分かりました。

委員長：秋田県五城目町についてはそのような形で願います。次のキーパーソン21については、「キャリア教育等について」として、当初からの団体設立の経緯、団体の活動内容、活動内容としてのキャリア教育、学習支援・居場所づくりなどの取り組みの視察を依頼し

ている。これについては前回の委員会で出た意見のとおり質問してもかまわないと思う。国内でこのような取り組みをやっている団体はそうないので、きっと真新しい発見があると思う。ほかに同じような活動を行っているNPO法人はそうないと思うが、似たような活動をしている団体の内容等も把握いただければより深いところが追及できるような気がする。前回の委員会で出た話以外に何かある委員はいるか。再度休憩する。

【休憩 11:17～再開 11:25】

委員長：再開する。キーパーソン21について、前回の委員会で出た中身以上のものはあるか。前回のままでかまいませんか。

北村委員：以前は、ゆとり教育をやられていた時期があって、その時から今では見直しがかかっている状況だと思うが、違いがあるのかどうか。

委員長：ゆとり教育との関連については、あくまでも文科省がつくったものなので、NPOであるキーパーソン21ではたぶんコメントできないと思う。ただし、話の内容の中でゆとり教育の弊害との言葉が出たとしたら質問してもかまわないと思う。

鈴木委員：私は、子どもがプログラムを受けた後、どのような反響や感想があったかについて聞いてみたい。また、子どもたちがプログラムを受けた内容に対する評価はどのようにされているのか聞きたい。

委員長：その内容はおそらく入っていると思う。その辺を突っ込んで清水町のためになる内容を聞き出してもらいたい。キーパーソン21についてはこれで終了したい。続いて千葉県南房総市については、「幼保小中一貫教育の推進について」として、当初から視察依頼をしている。前回の委員会で出た「教育委員会において保育所等も所管している組織」の話があったので、「15年教育の取り組み」の調査も依頼した。時間の制約があるのでポイントを絞って調査していただきたい。予算をかけて道外視察に行くということで、報告書については十分精査した上で内容の充実したものを提出したいと思うので、それを踏まえて視察に向かっていたいただきたいと思う。今後のスケジュールについては、視察までの間には各委員で内容を整理して時間内に十分な調査ができるように準備をしていただきたい。視察終了後には、各委員が視察で感じたことなど清水町のためになるような調査結果を整理し報告することになっている。それらを整理するにあたり、5月19日に委員会を再度開催し、説明員として視察に同行した斉木学校教育課長に出席いただき、視察で各委員が感じたことについて教育委員会の見解を伺いながら、どのように清水町に反映できるかという会議を持ちたいと思うがいかがか。

(よろしいとの声あり)

委員長：そのように計画したいと思う。5月19日の会議内容を踏まえ、5月24日の期限で視察研修の報告書を提出いただきたい。皆さんから出た報告書を踏まえて、報告書をまとめていきたいと考えている。まとめについては、委員長と副委員長に一任いただいてよろしいか。

(よろしいとの声あり)

委員長：そのように進めたい。道外視察についてほかに何かあったらご意見をいただきたい。休憩する。

【休憩 11:32～再開 11:34】

委員長：所管事務調査における道外視察の事前調査についてほかに何か意見がありますか。

(なしの声あり)

委員長：所管事務調査における道外視察の事前調査について終了する。

(2) その他

委員長：その他、委員の方から何かあるか。

(なしの声あり)

委員長：これで総務文教常任委員会を終了する。